

外国語学習と、ダイバシティー発想

佐々木 かをり

外国語を勉強するという事は、多くの人にとっては「外国の人と話がしたい」という欲求とつながっていることと思う。しかし実は、もっと大きな意味、効果があると私は考えている。

私にとって、初めての外国語は、小学生の頃に出会った英語であった。母の妹がアメリカ人と結婚して、来日。突然、アメリカ人のいとこ達が現れ、遊ぶために英語の台詞をいくつか覚え、唱えるようにして会いに行ったことを思い出す。また、我が家の裏には、イタリア人が住んでいた。もちろん流暢な日本語話すので、外国語を話す理由がなかったが、習いたての英語で、「What time is it now?」と窓越しに話しかけると「時計はないの?」と日本語で返され、悲しかったことを思い出す。この What time is it now? は、町でもよく使った。周囲に米軍基地があったので、そのエリアの近くでアメリカ人に会うと、すぐに、時刻を尋ねたものだ。

ひょんなことから神奈川県立外語短期大学附属高等学校(現・国際高校)に入学し、英語語の他に、第2外国語を選択することになった。実用的なスペイン語にするか、上流階級なら皆たしなみがあるフランス語にするか。まよった結果フランス語を選択。3年間学んだのにもかかわらず全く身につけなかったが、英語にない、言葉の面白さ、新しい発想を楽しんだ。名詞が、男か、女かに分けられるなんて! 動詞が変化するなんて! 数字の数え方が不思議! などと、一つ一つに驚きながら、私の脳が広がるのを感じた。

大学では、中国語を選択した。英語で授業が行われている上智大学外国語学部比較文化学科(当時)で、外国籍の学生と、英語でフランス語を学んだら好成績は望めない。西洋人と競争するなら、漢字で勝負の中国語だとすすめられ、不純な動機で選択したが、中国語は大変おもしろく、4年間学んだ。フランス語と違い、動詞が変化しない! 過去形にもシンプル! と、その面白さ、発想を楽しんだ。

実は同じ頃、英語も面白くなってきた。英語を学ぶのではなく、英語で学ぶ毎日だったこともあり、英語で考えることの楽しさを実感し始めたのだ。英語(当大学では、国語)の先生が、例えば、目覚まし時計を手にして、これについて、次回までに4つの文章を書いてくるように、と指示する。一つは分析、一つは説明、一つは批評、と言った具合だ。日本語教育、国語教育で、そ

のような発想をしていなかった私は、英語自体より、英語発想訓練を受けることができたことが、何よりも、大きな収穫だった。

その後、初めての留学で渡米。大学で学び、その後ラジオ曲で DJ をするというインターンをした。大学で、Do you want to come to our party? と聞かれると、当時の私は、イエスと答えると、行きたいという自分の欲求を表現することになるという気恥ずかしさ、同時にノーと答えると、行きたくないという自分の本音を表現することになるという気まずさ、両方が出てきて、なかなか、はっきり答えられないこともあった。日本語なら want という自分の気持ちを暴露することなく、行くとか、行かないということ表現できるのに。英語を使うことで、初めて、自分が本当は何を考え、何をほしがっているのか、見つめることができたのである。

店に行けば、Do you have ~? と質問する。日本語なら、～はありますか? だろう。あるか、ないかということ答えているうちは、自分自身の決断も責任もない。しかし、私は持っているのか? と自問自答するなら、なぜ、その商品を置いているのか、なぜ置いていないのか、その判断をしたのは誰なんだろうと、思いを深めることもできる。

今、政治でも、経営でも、教育の世界でも「ダイバーシティ」、多様性が重要視されるようになって来た。多くの場合、ジェンダーダイバーシティ(性別の多様性)が語られるが、私が大切に思うことは「思考の多様性」を持つことである。一つのモノ、出来事を、どのようにとらえるか、分析するか、他の事象と関係付けるか。考え方、視点が、多様であることが、一人の人間としても、組織としても、これからの成長キーワードであると考えている。

外国語を学ぶということは、まさに、一つの物、出来事、気持ちを、いままでと違う角度から見て、単語を選んで、言葉にするということが、思考の多様性を身につけるのに欠かせないと思う。

私は最近、アメリカ、中国、フランスと、世界各地で講演機会に恵まれている。なぜ私が講演をするのか。それは、私の視点が聴き手にとって興味深いからであろう。言葉ができることも条件だが、やはり、自分の考え方もつことがダイバーシティ社会では必要不可欠なのだ。

外国語を学ぶことは、大変重要だと考える。単に外国籍の人と会話ができるということにとどまらず、言語背景や組み立てを学ぶことで、思考範囲が広がる。仕事の幅も、可能性も広がる。また、英語は、誰もが習う言語になったからこそ、英語以外の外国語も学んでみることも、また、英語を使って何らかの学問を勉強することが、思考を広げる、いいきっかけになることだろう。

先月から15歳の我が子が、海外留学をはじめた。英語での授業、多国籍の同級生、町中での複数言語、という生活環境で、今後どのように情報を学び、心を成長させて行くのか、とても楽しみにしている。思考を広げる中等教育の時期に、多様な言語に触れることは、様々なスポーツをしながら体を鍛えるのと似ている。脳の活性化、多様な視点のために、外国語教育が、もっと日本の学校でも積極的に深められると良いと願う。

(株式会社ユニカルインターナショナル代表取締役社長、
株式会社イー・ウーマン代表取締役社長)